

# 新代表でも支持率低下する立憲民主党

立憲民主党は、泉健太氏の  
新代表就任が支持率拡大に結  
びついていない。先の衆院選  
では共産党との共闘といった  
“野合”に有権者が反発した  
が、泉氏は新代表就任後も今  
後の方向性を明示しないな  
ど、有権者への説明責任を果  
たしていない。こうした新代  
表の姿勢が有権者に受け入れ  
られていないようだ。

読売新聞は6日付けの朝刊  
で、3〜5日に実施した全国世



論調査の結果を掲載した。そ  
れによると、岸田内閣の支持  
率は62%となり、前回（11  
月1〜2日調査）から6ポ  
イント上昇した一方、不支持  
率は22%（前回29%）に  
低下した。自民党の支持率は  
41%（前回39%）となっ  
た。衆院選では自民党が絶対  
安定多数を占めており、この  
結果は当然と言えば当然だ  
が、岸田内閣が衆院選を経て  
順調に国政を運営しているこ  
との現れだ。これに対し、立  
憲民主党の支持率は7%で、  
前回調査の11%から4ポイ  
ント低下している。この調査  
では日本維新の会が8%（前  
回10%）となっており、立  
憲が維新に逆転を許す状況に  
なっている。この調査で特に  
注目すべきは立憲が今後とも  
共産党と協力し政権交代を目  
指すことの是非を聞いている  
ことだ。目指す方がよいと思  
うのが24%だったのに対し、  
思わないのが63%となり、国民が  
立憲に共産党との関係を見直す

ことを求めている状況が明らか  
になった。しかし、泉代表  
はこの点について、曖昧な説  
明に終始している。2日に行  
われた記者会見で「（来年の  
参院選で）過去2回の参院選  
の1人区の本化の方式を続  
けるのか、変えるのか」と問わ  
れた泉氏は「我々は代表選で  
もみんな一本化を目指すとい  
うことをお話ししておりま  
す」と述べている。また、地  
方回りのスタートとなる福岡  
で4日行った記者会見で「地  
方の議員、あるいは地方の連  
合に共産党とのあり方をどの  
ように説明し、考えの意思統  
一させていくか」との質問に  
対し「1人区については可能  
な限り一本化を目指すという  
ことをこれまでも言ってきた  
し、その姿勢だ」と同様の回  
答をしている。野党共闘を続  
けることを示唆しているのだ  
ろうが、明確でないことは間  
違いない。有権者の多くが共  
産党との協力関係の解消を求  
めている中で、「これまで一

本化を目指す」と話してき  
た」などと木で鼻をくくった  
説明で有権者が納得すると  
思ったら間違いだ。  
外交、安全保障など基本政  
策が異なる政党が協力し、候  
補を一本化するというのは  
は「共闘」というより「野  
合」だ。その「野合」を参院  
選でも継続するというのなら  
有権者が納得できる説明が求  
められるはずだ。それにも関  
わらず「これまで一本化を目  
指すと話してきた」と繰り返し  
す泉氏には、一般の有権者は  
まったく見えていないのだら  
う。